

主体が被っていることはどのように明晰にされるのか

——ウィトゲンシュタインの「概念形成」を頼りに

槇野 沙央理 (Saori Makino)

大正大学

一つの命題が与えられているとき、また、一つの数が与えられているとき、そこでは何が得られているのか。一つの命題が与えられているとき、そこでは同時に、命題の分節化（定項と変項との区別）と、変項の値ひとまとまりが得られているだろう。一つの数が与えられているとき、そこでは同時に、大小の関係（隣り合う個の関係）と、連続しうる数の体系ひとまとまりが（複数のまとまりがあるかもしれないが）得られているだろう。このように、眼前にある記号を主体が被っているとき、その主体はいかにして、その記号がもたらすことを明らかにすることができるのだろうか。

私はこの問いに答えるための解答方法を、ウィトゲンシュタインの哲学に依拠しつつ構成したいと思う。現在の見通しは次の通りである。まず、「一つの命題が与えられているとき、そこでは同時に、命題の分節化（定項と変項との区別）と、変項の値ひとまとまりが得られている」とみなすとしても、必ずしも一つの命題が与えられているときに、変項に異なる値を置き換えた別の諸命題が具体的に得られている必要はない。操作の結果としての諸命題はまだ得られていなくとも、諸命題を得る操作の「仕方」が得られていればよい。

とはいえ、 fa で表されるような一般的な命題形式 (TLP 5.47) が得られるとしても、つまり、諸命題を得る操作が得られること自体は保証されるとしても、いかにして、一つの命題から、他の諸命題を得ることができるかは、『論理哲学論考』のウィトゲンシュタインに反するとしても）明らかでないからである。というのも、「一つの命題が与えられているとき、そこでは同時に、命題の分節化（定項と変項との区別）と、変項の値ひとまとまりが得られている」における、与えられている一つの命題は、具体的なものである。つまり、 fa で表されるような一般的な命題形式とは別物である。 fa という一般的な命題形式が得られたとしても、それは一つの具体的な命題と並列・比較可能なものではない。一般的な命題形式が得られるとしても、一つの具体的な命題からその命題と並列・比較可能な他の（諸）命題が得られるとは言えない。

もちろん、定項、変項、そして変項となりうる値の範囲が得られていれば、一般的な命題形式が得られることが、一つの具体的な命題からその命題と並列・比較可能な他の（諸）命題を作り出せることを意味するだろう。しかし、定項と変項との分節化、いわば命題の分節化自体はいかになされるのだろうか。これが明らかでなければ、諸命題を得る操作の「仕方」が得られたとは言い難いだろう。

発表では、「一つの具体的な命題からその命題と並列・比較可能な他の（諸）命題を作り出せる」ということが、一つの具体的な命題の分析を通じてのみ意味を持つと考えた

い。この考えを十全に展開するため、後期以降のウィトゲンシュタイン哲学のアイデアを利用する。『哲学探究』第二部 xii 章には、「概念形成」(PU2 §§365-6) という語が登場する。「概念形成」という語は、後期以降のウィトゲンシュタイン哲学の方法をよく言い表すように見える (cf. Kuusela 2013)。その方法とは、我々の想像力に働きかけることであり、分節化を受ける (有意味な文字列として扱われる) 一つの具体的な命題を、異なる仕方で眺めるよう促すことである。

「概念形成」というウィトゲンシュタインのアイデアを活用できれば、一つの具体的な命題の分析ということが、様々でありうる分節化の一つとして捉えられる。これは、一見すると相対主義的な有意味観を提示するように見えるかもしれないが、本発表ではそのようには解さない。むしろ、我々が確実だと思う命題の分析のあり方を認め、異なる分節化との比較可能性のもと、その確実さを捉え直すこととして解する。その上で、その捉え直しにおいて初めて、言葉を取り扱う主体が一つの命題を与えられているときに被っていることを明晰にすることができることを主張したい。定項と変項との分節化、いわば命題の分節化がいかになされるのかは、比較可能性を通じて初めて十全に明らかにされるのである。

参考文献

- Kuusela, Oskari (2013), “Wittgenstein’s Method of Conceptual Investigation and Concept Formation in Psychology”, *A Wittgensteinian Perspective on the Use of Conceptual Analysis in Psychology*, edited by Timothy P. Racine and Kathleen L. Slaney, Palgrave Macmillan, pp. 51-71.
- Wittgenstein, Ludwig (1963), *Logisch-philosophische Abhandlung = Tractatus logico-philosophicus*, Suhrkamp Verlag.
- . (2009), *Philosophical Investigations*, translated by G.E.M. Anscombe, P.M.S. Hacker and Joachim Schulte, Rev. 4th ed. by P.M.S. Hacker and Joachim Schulte, Wiley-Blackwell.